

## 【公開文書の作成例】

### 臨床研究「IGCCCG update model による転移性非セミノーマ胚細胞腫瘍の無増悪生存期間の解析 」について

筑波大学附属病院泌尿器科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

#### ① 研究の背景・目的

精巣腫瘍患者の予後予測には国際胚細胞癌共同グループ (IGCCCG) 分類が広く用いられています。しかしこの分類は、1975年から1990年間に治療された精巣腫瘍患者さんのデータがもとになっており、新しい化学療法レジメンが普及した現在とは予後が異なっている可能性などが指摘されています。このような背景から、IGCCCG Update Consortium は、1990年から2013年間に治療を受けた転移性非セミノーマ胚細胞腫瘍(NSGCT)の男性9,728人のデータを収集し解析を行った結果、NSGCT患者さんの生存率には改善が認められました。さらに、年齢と肺転移を予後不良因子として追加したIGCCCG update modelが開発され、NSGCT患者さん各人の無増悪生存期間(PFS)の予測が、IGCCCG Updateのwebページ上で簡単に計算できるようになりました。

我々は当院で治療を行った転移性NSGCT患者さんに対して、IGCCCG update modelによって計算した無増悪生存率予測値と臨床予後を比較することで、IGCCCG update modelの有用性を確認いたします。

#### ② 研究対象者

1981年1月1日から2022年3月31日までの期間に当院で治療が行われた転移性非セミノーマ胚細胞腫瘍の患者さんを対象にします。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024年12月31日までを予定しています

#### ④ 研究の方法

通常の検査、診療記録から得られる情報を登録し解析します。

#### ⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

試料：なし

情報：年齢、血液検査・画像検査・治療内容等の臨床情報、等

#### ⑥ 試料・情報の第三者への提供について

なし

#### ⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学 医学医療系 泌尿器科 講師 神鳥周也

#### ⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合

など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

泌尿器科：担当 田沼 光三郎

TEL：029-853-3223 FAX：029-853-8854 対応可能時間：平日の9:30-17:00